

みみタロウ

日本語版 ☆ 136号 2020年7月

滋賀県国際協会 ボランティアグループ「みみタロウ」
一時移転先住所：大津市松本1-2-1大津合同庁舎 7F

Tel : 077-523-5646

E-mail : mimitaro@s-i-a.or.jp

URL : http://www.s-i-a.or.jp



: https://www.facebook.com/siabiwako



小さな命に寄り添って

今回みみタロウは、看護師の松岡ジャケリネケイコさん（長浜市在住）にお話を伺いました。

長浜赤十字病院の新生児
特定集中治療室（NICU）で
働き始めて、7年目です。両親は共にブラジルの
日系人で、私は日本で生まれ
ました。日本にいるなら日本人
と同じ教育を子どもに受けさ
せたいという親の考えから、私は日本の小学校に通い、家庭ではポルトガル語で
話していました。学校には外国人児童のための日本語
教室がありましたが、私は日本人と同じクラスで、
先生や友達に助けをもらいながら特に不自由なく過
ごしました。ただし当時は今のような通訳支援がな
かったので、低学年の頃は学校からの連絡文書は、父が
会社でやさしい日本語で説明してもらい、高学年にな
ると、私が親に訳していました。中学生になると
一気に勉強が難しくなって勉強が苦手になりました
が、それ以上に苦労したのが高校受験です。当時は
まだ身近な同国人の中には高校に行く人が少な
かったので、高校受験についての情報がなく、どこにど
んな学校があるのかさえわからず、全て先生や友達に教
えてもらい、それを親に説明して乗り切りました。高校では勉強が面白くなり、漠然と大学に行こう
と思っていたところ、所属していたテニス部の先生か
ら「看護師になるのはどうや」と声をかけられました。
看護師は全く自分の人生の選択肢になかったのです
が、親に話すと乗り気で、しかも近くに看護学校があ
るらしいということで、自分が看護師になれるのか
半信半疑のまま受験しました。入学すると、別世界に
足を一歩踏み入れたようで、自分に合っていたのか、
看護の専門的な学問の奥深さに引き込まれていきま
した。今思うと、あの時看護師を選択して本当に良か
ったと思います。NICUには、体重が500～600gの未熟児や、
先天性の染色体異常など様々な病気を持つ赤ちゃん
がやってきます。ここで働くまでは、赤ちゃんは元氣
に生まれるのがあたりまえだと思っていたのですが、
それは本当に奇跡だと今では思っています。ここでは
言葉の通じない小さな命を預るので、看護には細か
な観察力と専門性に加えて、赤ちゃんの親御さんの
大きな心配に寄り添うことも大切です。時には外国人
の赤ちゃんが来られることもあり、親御さんが言葉が
わからないと、抱える不安もさらに大きくなります。
そんな時、赤ちゃんの状態や治療方針を母国語で
説明してあげると、とても安心してくれます。昔、母
が病院で言葉に困っていたことを思い出し、こうし
て役立つことができると、とても嬉しいです。私自身は勉強が得意な方ではなかったのですが、
周りの人々に支えられ、こうして天職だと思える
仕事に就くことができました。ですので、きっとどの
人にも自分の才能を発揮できる分野がどこかにある
はずだと思います。実際、そこにたどりつかないまま、
「外国人だから」と簡単にあきらめてしまったり、親
から「勉強しないのなら働きなさい」と言われたり
することも多いようですが、それでは子どもにとって
もったいないと思うのです。子どもはまだ視野が狭く、
一人では判断できないので、力を発揮できるように
なるまでは親や周りの後押しが必要です。今は外国人
という理由でできないことはあまりないので、是非、
若い人たちはねばり強く勉強して、得意分野で活躍
してほしいです。そしてできれば、何か資格を取っ
ておくと、これからの人生で強みになりますよ。私もまだまだ未熟なので、看護についてさらに学び、
患者さんにゆったりとした気持ちで寄り添う温かい
看護師を目指したいと思っています。